



## ～銀座七丁目店創建 80 周年・狸小路店開業 100 周年記念～ 銀座・札幌・名古屋 エリア別樽生を数量限定販売



株式会社サッポロライオン（本社・東京、社長・刀根義明）は、ビヤホールライオン銀座七丁目店の創建 80 周年とビヤホールライオン狸小路店の開業 100 周年を記念し、さまざまな周年記念イベントを開催します。

周年記念イベントのひとつとして、“銀座発”“札幌発”“名古屋発”と 3 都市でそれぞれ異なるオリジナル樽生を、数量限定で販売します。

なお、ビヤホールライオン銀座七丁目店は、本年 4 月 8 日で創建 80 周年を迎え、またビヤホールライオン狸小路店は、本年 5 月 1 日で開業 100 周年を迎えます。

### 記

#### 1. “銀座発”オリジナル樽生ビール「金のピルスナー」

販売期間：2014 年 4 月 1 日（火）～なくなり次第終了（10,000 L 限定醸造）

販売店舗：「ビヤホールライオン銀座七丁目店」をはじめとする都内、及び北海道・名古屋を除いたエリアの銀座ライオン業態、安具楽業態、安曇野庵業態など全 55 店舗

酒類区分：ビール

特 徴：麦芽 100%、ホップの爽やかな苦みが喉に広がるピルスナータイプ。銀座七丁目店のガラスモザイク壁画に描かれる大麦を収穫する女性たちの疲れを癒す爽やかな風を表現。

#### 2. 札幌発オリジナル樽生ビール「100 年の想い」

販売期間：2014 年 4 月 15 日（火）～なくなり次第終了（1,800 L 限定醸造）

※「ビヤホールライオン狸小路店」のみ 4 月 14 日（月）17:00 より先行販売

販売店舗：「ビヤホールライオン狸小路店」をはじめとする北海道内のサッポロライオンチェーン 6 店舗

酒類区分：ビール

特 徴：狸小路店 100 年の歴史をイメージし、100 年以上伝承される伝統製法で製麦した麦芽を使用。また新品種ホップ「ふらのほのか」によるフルーティーな香りが特徴の淡色ビール。

#### 3. 名古屋発オリジナル樽生発泡酒「麦と檸檬」

販売期間：2014 年 4 月 9 日（水）～なくなり次第終了（1,800 L 限定醸造）

販売店舗：「浩養園」をはじめとする名古屋市内のサッポロライオンチェーン 8 店舗

酒類区分：発泡酒

特 徴：浩養園併設の地ビール醸造所で製造しているヴァイツェンタイプのビールをベースに、名古屋で創業したポッカサッポロフード&ビverage のレモン果汁「ポッカレモン」を加えた爽やかな飲み心地のオリジナル発泡酒。

#### 4. 価格

「金のピルスナー」「100 年の想い」「麦と檸檬」ともに、オリジナル記念グラス（430ml）にて、680 円（税別）で提供します。また、オリジナル記念グラスをお土産としてお持ち帰りいただけるお得なセットを 1,480 円（税別）で販売します。

オリジナル記念グラス  
イメージ



以上

この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

報道関係の方	経営戦略部（西村 礼佳）TEL：03-6222-5183 / E-mail：kouhou@sapporo-lion.co.jp
一般の方	お客様相談センター TEL：0120-848-136

# ビヤホールライオン銀座七丁目店 創建80周年



昭和9年竣工当時の様子



昭和9年4月8日、大日本麦酒(株)の本社ビルとして竣工した当ビルの1階にて、ビヤホールが開店しました。

ビル及びビヤホールの内装は、当時としては贅をつくし、工夫を凝らした造りとなっており、建築家を含め多くの人から絶大な賞賛を集めました。

店内は「豊穡と収穫」をコンセプトに、大麦や葡萄をモチーフとした装飾が施され、誰もがゆったりと生ビールを楽しむ雰囲気となっています。



昭和20年代接客当時の様子

戦時中空襲により多くのビヤホールは焼失または疎開のため取り壊されましたが、当ビヤホールは空襲を免れ、昭和20年9月から昭和26年末まで進駐軍専用のビヤホールとして接客され一般の方は入れませんでした。



昭和50年代の店内の様子



現在の店内の様子

厨房機器など一部は時代に合わせ改良されていますが、店内の内装は創建当時の姿のまま今も変わりません。親子3代でご利用いただくなど、時代を超えて多くのお客様からご愛顧いただいています。

戦後の女性の社会進出とともに、ビヤホールにも女性のお客様が多くなりました。今では、女性同士でジョッキを傾ける華やかな光景が日常となりました。

# ビヤホールライオン狸小路店 開業100周年



大正3年開業当時の様子



明治44年、ビール会社が委託経営にて開業したビヤホールが狸小路2丁目に開店しました。この委託経営時代の資料は残っておらず、実質的な直営営業を始めたのが大正3年5月1日であり、これを「ビヤホールライオン狸小路店」の開業日と位置づけています。

当時は近隣に他社のビヤホールが数軒軒を並べており、しのぎを削っていたそうです。また当店のウェイトレスが首から鞆を下げて食券を売り歩いていたという話は、オールドファンから語り継がれています。



二代目外観



昭和30年代の店内の様子

現在の店舗は、三代目として昭和35年に建替えられたものであり、今に至ります。店頭2階のベランダに立つのは、昭和53年から親しまれているカラクリ人形「ライオン男爵」です。以前は「ウィーンの音楽時計」の曲にのり、1時間おきに鮮やかな飲みっぷりを披露していました。



開業60周年イベント時の様子



店頭のカラクリ人形「ライオン男爵」

「直営ビヤホール」「サッポロビヤホール」「狸小路ビヤホール」など店名や建物の様子は時代とともに変化していますが、100年前から同じ場所で営業している当店は、札幌市内で現在営業しているビヤホールでは最も歴史が古い店として、今も多くのお客様からご愛顧いただいています。